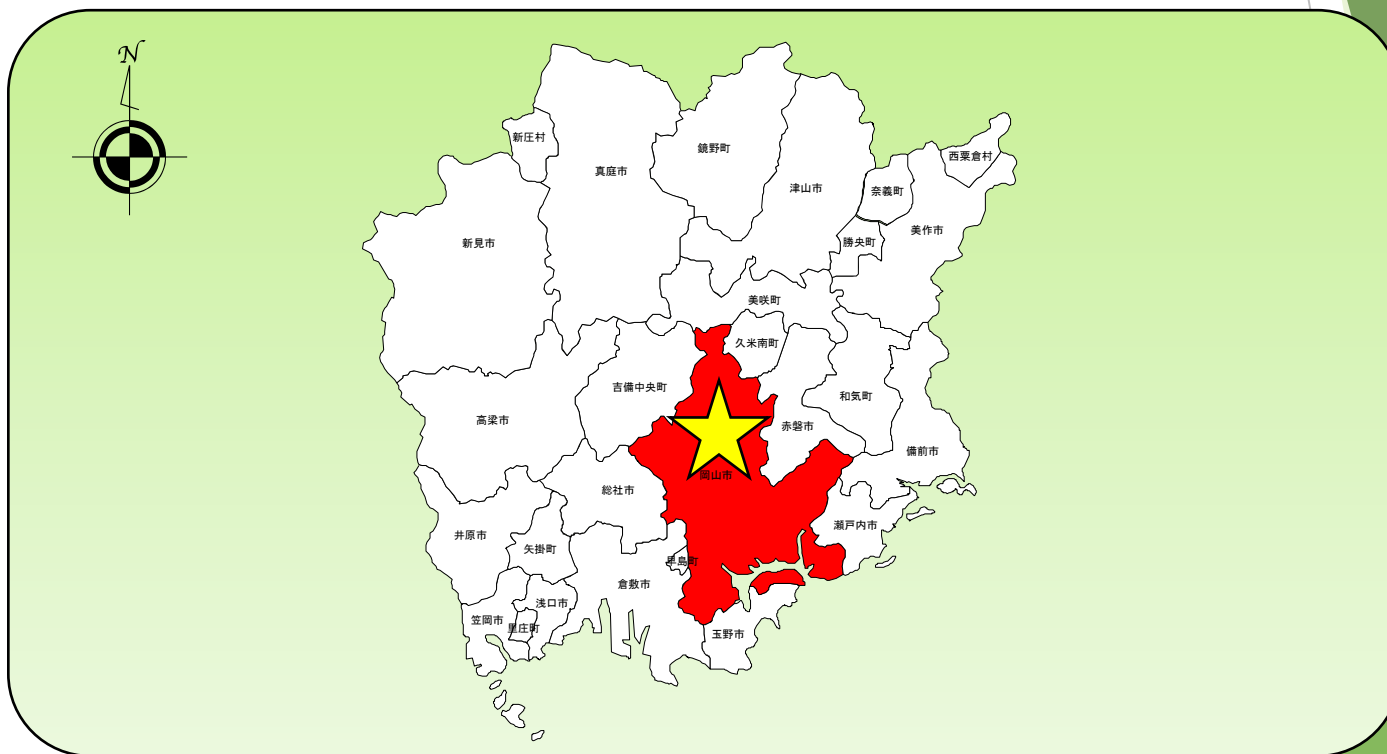


【多面的機能支抔】

ほうだに
母谷里山保全会



岡山県岡山市

I. 地区概要

県のほぼ中央部に位置する標高200～500mの内陸地域で、土地の約70%を山林が占める。地域の中央部を一級河川の旭川が南北に流れている。気候は、温暖な瀬戸内海式気候であり、水稻中心の農業を行っている。山の芋（つぐね芋）や椎茸等の県下有数の生産地。



カミサンショウウオ

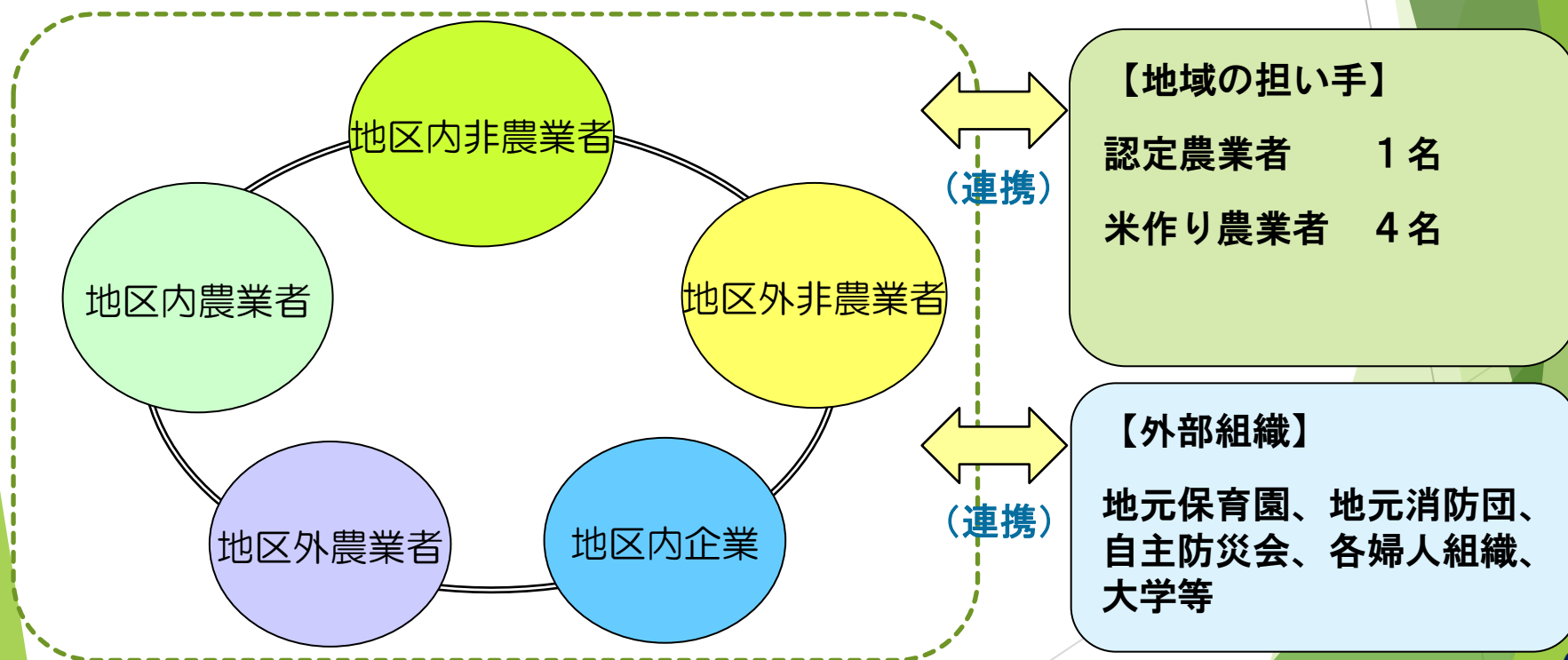
みんなで守ろう身近な自然

II. 組織設立の経緯

本地域では、手入れが行き届かなくなった里地里山が増加し、在来の野生生物が環境変化に対応できない状況であった。また、生活や価値観の転換とともに、住民の自然環境への関心や理解が低下する課題があり、平成27年度に「里地里山の保全と持続可能な利用」を掲げ、多様な野生動植物が生息・生育する地域となるように本活動組織を設立。

Ⅲ. 組織の概要

- 取組活動 農地維持支払、資源向上支払（共同活動）
- 認定農用地面積 18.5ha（田：16.9ha 畑：1.6ha）
- 組織構成 3集落（農家数=32戸、農家以外=59戸）
農業者、非農業者、地区外居住者、一般企業で構成



IV. 活動の内容

1. 農地維持支払

○ 地域資源の基礎的な保全活動

水路・農道・ため池の点検及び地域住民全員で草刈りや泥上げ等を実施。刈り取った草は、地元消防団と連携して焼却処理し、生活環境の支障とならないよう配慮している。



ため池周りの草刈り

1. 農地維持支払

○ 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

高齢農家の休耕田発生防止のため、近隣の担い手と協力し地域全体で支える体制の構築に取り組んでいる。中山間地における担い手の確保の課題については、特別栽培農産物を進める担い手への農地借り受け促進を図るため、レンゲの緑肥効果を活用した農地の土づくりを行うことを検討会において決定し、農地の有効活用を活動計画に追加し、レンゲの植栽に取り組んでいる。

2. 資源向上支払

○ 共同の活動

ため池の堤体がイノシシに掘り荒らされないよう、法面に生えた葛の根に電動ドリルで穴を開け、除草剤を注入し枯渇させる等の維持管理を実施。



ため池法面の植物除去

2. 資源向上支払

○ 農村環境保全活動

里地里山の在来生物を次世代に残すため、生物生態学を専門とする岡山理科大学の研究チームと連携し、小学生や地域住民が参加する生き物調査等を実施しており、生態系の重要性を学ぶ環境教育の機会となっている。1年目は、[池干しによるため池の点検](#)と併せて[生態系調査](#)と[外来種駆除](#)を実施。2年目は、用水路の生き物調査と[絶滅危惧種カスミサンショウウオの保護活動](#)を実施。今年度は、遊休農用地をレンゲ畑にして、土作りと[昆虫調査](#)やミツバチの[巣箱の設置](#)を行った。



生態系調査
(池干しと併せて実施)



用水路の生き物調査



レンゲ畑で昆虫調査

2. 資源向上支払

○ 多面的機能の増進を図る活動

活動内容等について、新聞やインターネットによる情報発信を実施。母谷区自治会のホームページで、活動案内や活動報告のほかにも、鳥獣害の発生状況や農作物の生育状況といった身近な情報を広く発信し、地域コミュニティの活性化を促進している。

また、自主防災会と連携し、イベントに合わせて非常食の作成と試食や炊出し訓練等の自主的な防災訓練活動を実施。地域が一体となって防災力の強化に取り組む。



母谷里山保全会、池干し・芋掘り」
○10月22日 玉杉園（砥部町）
30人の親子が、たけのこと用太炊の生き物調査、
外産種の除去を行った。ヤゴや、ホタルの幼虫
が見つかった。その後、休耕田を耕し、芋畑で
芋掘りを行い、地元の新米おにぎり、餅など一
緒に大学で食べてもらった。参加した子ども
たちは里山の自然を楽しんだ。（大野克典）

山陽新聞朝刊に活動
を掲載
2017/2/16



非常時の炊き出し訓練
(婦人組織との連携)

○ 新田池干し（ため池点検と外来魚除去）



○ 生物調査と芋植え芋掘り体験



○ レンゲ祭り (美味しい米作りと子供達の体験学習)



2. 活動のポイント

○ 自分達の出来ることを自分達で行う

○ 子供達が楽しい企画を加える

○ 婦人達にも役割の分担を行う

○ 他の活動も一緒に行ってしまう

V. 活動による効果（成果と将来の姿）

○現在は、遊休農地約1haの農地で農業者が実践活動（遊休農地へのレンゲ植栽）による特別栽培農産物への効果を検証し、この取組みを近隣の担い手にPRする取組みについて話し合いを行っている。

○大学と連携し行った絶滅危惧種カスミサンショウウオを保護する取組みは、採取した卵を大学が育て、毎年約50匹を生息地に戻すなど大学の研究対象に発展し、生育地の保全となる。

○インターネットを活用したホームページによる情報発信では、活動内容を頻繁に公開することで11月の月間アクセス数が900回となり、平成29年3月の開設時と比べ3倍以上増え、地域コミュニティが強化される。

<https://townweb.e-okayamacity.jp/c-houdani/>

○工業団地の整備によって都市化の進む中で、近隣集落との連携を積極的に推進し、地域の郷土愛を大切にしたい地域づくりを図っていききたい。

